第２学年　　国語科学習指導案	
題材	短歌の世界　　『現代の国語　２』　　（三省堂）
目標	○三十一文字のことばの広がりを感じ、短歌を読んだり作ったりすることを楽しんでいる。 【国語への関心・意欲・態度】 ○短歌の形式や表現技法について知識をもとに短歌を読んでいる。【言語に関する知識・理解・技能】 ○短歌に描かれた世界を想像し、味わうことができる。　　【読む能力】
指導計画	第一次　　・・・６時間 第１時　短歌の形式を知り、音読を楽しむ。　　【言語に関する知識･理解･技能】 第２時　短歌を読み、描かれている世界を味わう。　　【読む能力】 第二次　　・・・２時間 **第１時　他の短歌を味わい、返歌をつくる。　（本時）【読む能力】** 第２時　短歌の解釈と返歌をクラスで交流する。　　【読む能力】
指導上の立場	○単元について 代表的な定型詩である短歌の学習である。これまで「朝のリレー」「ウソ」（１年時）「未知へ」（２年時）と自由詩の学習をしてきているが、定型詩を本格的に読み味わうのは本単元が初めてである。教科書には内容、時代の異なる 13 首の短歌が掲載されており、うち三首は鑑賞文付きである。五句という限られた形式から作者の思いを読み取ることは難しく、敬遠されがちである。しかし、一語一語吟味し選ばれたことばに目を向けることにより、ことばの広がりを感じ、生徒自身のものの見方や考え方を深めることにもつながると考える。 ○生徒の実態 削除しています。 ○本単元で工夫する点や手立て これまで、説明文や小説など教科書で学習した内容を生かした表現活動を取り入れることによって、表現力を育てるとともに、学習したことの定着を目指してきた。本単元でも、短歌を読むだけではなく、短歌を詠むという表現活動を通して、短歌の技法の定着や短歌のもつ魅力の体感を図っていきたい。 ・「神戸校外学習」の感想など、生徒の身近なテーマで短歌をつくる。その際、小黒板を利用してイメージワードを出し、組み合わせることでヒントとする。 ・鑑賞や創作の際には、個人→グループ→全体の活動を組み合わせる。 ・創作の際には、例を示したり、ヒントワードをあげさせたりするなど、スムーズに創作に取り組めるよう支援する。また、ワークシートも工夫する。 ・生徒の作品（鑑賞でも、創作でも）は、学級全体で交流する。 ・まとめの学習として、返歌をつくる。（短歌を「読む」＋短歌を「詠む」学習の組み合わせ） その際、生徒が共感を抱きやすい短歌を３首用意し、選ばせる。 ・教員の作った返歌を紹介し、モデルを示すとともに、興味付けを行う。 ○研究主題との関連 本校が研究主題にして取り組んできた「表現力の育成」は、国語科にとっても重要なテーマである。「生徒の実態」でも述べた通り、自分の考えや思いを伝えることに抵抗を感じている生徒も多い。そこで、返歌をつくることによって、積極的に表現させたい。また、級友のさまざまな作品を読み比べることで、感じ方の違いを知り、自分らしい表現に自信をもたせたい。

本　時　案（第二次の第１時）		
目　　標	短歌を味わい、返歌を作ることができる。　　【読む能力】	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価基準・方法
１．短歌の基本的事項を確認する。	○音数や技法を確認するとともに、三十一文字に込められた思いを読み取るときのポイントを確認させる。 ・　五感で感じたことや、５Ｗ１Ｈなど ・　短歌を読む際には、想像力を働かせ、自由に読むことが大切。	
２．「本時の目標」を知る。	○ほかの教師が作った返歌を紹介し、モデルを示すとともに、興味付けを行う。 **短歌を読んで、短歌を詠もう。** ○「読む」と「詠む」の違いを確認させる。	
３．グループで短歌を読む。	○生徒の共感を得やすい短歌を３首用意し、前時に配布しておき、イメージを広げさせる。 ○３首の短歌の中から、班ごとに返歌を書く短歌を選ばせる。 ○個人（短歌からイメージすることば）→グループ（意見の交流、読み深め）→個人（読みのまとめ）の活動で読みを深化させる。 ○班で答えをひとつに絞ることが目的ではなく、イメージを広げ一人ひとりが自分の読みを見つけることが目標であることを確認する。 ○読み取りに役立つ観点を示すなど、ワークシートを工夫する。	
４．３での読みをもとに、返歌を詠む。	○学習活動３の際のイメージワードやもとの短歌のことば（本歌取り）を組み合わせてもよいと伝える。 ○早くできた生徒には、もう１首つくることや、学習した表現技法を取り入れることなど、さらに学習を進める助言をする。	・短歌に描かれた世界を想像し、読みとったことを生かして返歌をつくることができる。【読む能力】 Ａ　読みとったことをもとに、推敲を重ね、作者の思いに対し、自分のことばで返歌をつくることができる。 Ｂ　作者の思いを考えることができる。
５．本時の学習を振り返る。	○「読む」ことと「詠む」ことの両面から振り返られるようワークシートに振り返りの欄を設ける。	
６．次時の予定を知る。	○次時は、完成した短歌を班やクラスで交流することを予告する。	